

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 98

2011年4月号

 NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

東北地方太平洋沖地震の

被害に遭われた皆さまに

お見舞い申し上げます

会員の皆様で被害に遭われた方

また、会員の皆様のご家族の方・親戚の方・友人・知人の方にも被害に遭われた方がおられるかと思いません。

心からお見舞い申し上げます。そして、一日でもはやく復興されることをお祈り申し上げます。

うしく里山の会 代表理事

坂 弘毅



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告

新年度を迎えて、各プロジェクトの責任者の方から昨年の振り返りと、今年度の取り組みについてまとめていただきました。



自然観察出前講座

石神 良三

自然観察のポイントを大切に

平成二十二年度の自然観察出前講座プロジェクト活動も、一覧表のとおり無事終了することができました。四月から十一月にかけての十五回の活動を振り返って、観察の要点を中心にその概要を報告したいと思います。

身近な自然への興味関心を深める。

自然観察というと、何か特別のところで行うというイメージをもつ人が多いように思います。出前講座は、参加者がふだん生活している周辺の、草地や荒地、畑や林、水田や水辺などの身近な自然に触れ、特に動植物などの生き物に焦点をあてて、自然の働きやしぐみに関心を持っていただきました。参加者の思いを大切にしながら疑問や驚きなどに共感し合い楽しく活動するよう心がけました。

体感的に自然の多様性に触れる。

幼稚園・保育園の幼児や小学生との観察の機会は年々増加しています。草花や昆虫、小動物への興味関心は高く、個人差はあるものの図鑑等による知識を持つている子が多くみられます。事前に観察ポイントを設定しておき、できる限り五感（視・聴・嗅・味・触）を使っての観察を行いました。

植物にしても、昆虫などの小動物にしても、視覚

的には同じような形態はしていても、手に触れる”ことよってその違いを体感できます。子ども時代の体感経験がその後の人格形成に影響を与えることを大切に活動工夫してみました。

生物のくらしとつながりに気づく。

花から花へと吸蜜するチョウ類。もくもくと緑の葉っぱを食べるいも虫。くもの巣にかかった昆虫。大きな葉の裏で休息するトンボ。スミレの種子を運ぶアリ。草木の実を食べる鳥類、などの予期せぬ生きものの生態に遭遇するのも自然観察の魅力です。

このような機会はまたとない絶好の観察ポイントとなります。参加者との思いを交流しながらゆとりを持って観察することにより、自然界での食う・食われるの関係や共生関係、寄生関係等にも気づいてもらうことができました。

以上、三つの視点から振り返ってみました。身近に生きる野生生物のいのちは、私たち人間も含めて、植物のつくり出す養分、つまり葉っぱ一枚一枚によって支えられているという自然観に気づき目覚めるための活動ともいえます。



触覚を使って「ハリギリ」観察

私立幼稚園提供 11.3.9

生物多様性が国際的な課題となっており、植物の多様性が土台となっており、わが国は、これからのより工夫を重ね充実した活動を展開していきたいと思いません。

平成22年度種動一覧表

月	回数	参加者			
		幼児	小中学生	大人	計
4	1		106	4	110
5	1		104	6	110
6	2	66		109	175
7	5	38	112	258	408
9	1		47	56	103
10	3	63	106	10	179
11	2	54		4	58
計	15	221	475	447	1143



巨木リサーチ2事業報告

渡辺 泰

牛久市協働事業巨木リサーチの

延長と新年度の計画

巨木リサーチ事業は牛久市との協働事業として平成十八年四月から前期三年間をフェーズ1とし、「市民の木」を中心に神社・寺院および個人の屋敷等にある巨木・古木・希少木百六十四本（二十二年一度一本調査）、六十六樹種の種名、幹周、樹高、樹冠幅、周辺の植物相等を明らかにした。平成二十一年度からの後期二年間をフェーズ2とし、フェーズ1で得られた成果を基に樹勢の衰えが見られる木や管理が不適切な木を選び、今後の健全な生育を図るための診断や管理を実施してきた。さらに巨木等がある現地へ直接市民を案内するガイド活動を展開し

てきた。

この間、公開報告会や資料写真展等を実施し、積極的に成果を市民に広報・紹介してきたところである。さらに市の支援の下に調査木のうち六十七本・二十九樹種を選び、市民向けのガイドブックである「牛久の巨樹」、および活動記録をまとめた「牛久市協働事業巨木リサーチ事業報告書」を二十年度末に出版したところである。

これらの活動を通して初期の目的が達成されたものと考え、里山の会独自の後継事業を企画し、会の内部で検討を行った。その結果、巨木リサーチ事業の成果物として前記著書が出版された機会に、これらのフォローアップのための広報・宣伝と一体化したガイド活動を市協働事業として、今後一・二年展開できるように市へ要望しようとの結論に達した。

この要望が市の認めるところとなり、平成二十三年四月から二年間延長し、新年度から次のような事



小坂町十三塚墓地
「市民の木No.34スタジイ」と周辺の管理作業
宮澤 10.11.7

業を実施することになった。

一・「牛久の巨樹」「牛久市協働事業報告書」の広報・宣伝およびその活用を推進する。

二・平成二十一～二十二年度のフェーズ2で得た成果を直接市民に広報する現地ガイドについて、内容を充実し継続する。前期の巨木等を中心としたスポット的ガイドを「市民の木」、巨木等の周辺樹木を含め、徒歩で線的なガイドを進める。なお、「牛久の巨樹」掲載木を「広報うしく」誌上で紹介する。

三・フェーズ1で管理を行った十五本の巨樹のうち、個人の屋敷にある二本を除く十三本について、巡回・観察し、幹基部の若枝除去や周辺の筍・雑木の除去などの管理を実施する。

四・ガイドコース沿いの樹木リストを作成し、社寺の由緒や史跡等の学習を進め、ガイド活動に資する。



あやめ受託事業報告

坂 弘毅

アヤメ園を市民の憩いの場所にしたい

この度の地震で、牛久沼周辺の被害状況を報告させていただきます。

アヤメ園脇三日月橋の両端では三〇センチ以上の地盤沈下で、通行が出来なくなりました（現状では応急処置済み）。牛久沼の土手の地盤が一部で沈下したことで、土手に大きな亀裂が入り立ち入り規制されています。アヤメ園の圃場の中では液状化現象によってシルト状の砂が巻き上がり異様な光景を見せていました。

さて、牛久市からアヤメ園の管理を受託してから六年目に入りました。雑草の生い茂るハナショウブの圃場に足を踏み入れたとき、脳裏をよぎったのは、えらい仕事を引き受けてしまったと思

起こします。

来る日も来る日も雑草の駆除に気が遠くなる思いでした。また、根腐れや、根切り虫などの脅威にも打ち勝ち、アヤメメンバーの努力が功を奏し、アヤメ園は往年の姿に戻りました。しかし、全体の株分けの後、一部で生育が悪くなった年があり、来園者から厳しいご指摘を頂いたこともありました。



拡大されたアヤメ園

そして、昨年は、新たな株の投入と圃場の拡大（二千㎡）などで、これまでになく多忙な年でした。今年、平成二三年度につきましては、全体の半数の株分けと新圃場の整備・補植が主な仕事になります。ハナシヨウプは最近の研究によって、連作障害があると報告されていますが、新圃場がこれまで水田であったことを考えますと、株分け後のハナシヨウプの圃場には最適であると考えます。

現在のアヤメ園は、桜の開花が聞こえてくる中、芽出しがはじまりました。枯れた葉の間から、元気な新芽が頼もしく感じます。

四月にはいると、これらの新芽は一気に伸び出しますが、同時に、雑草も伸び出しますので、目が離せない時期に入ります。受託してから六年目の今年は、新圃場の整備と補植を進め、牛久市民の憩いの場所として定着させ、県外からも多くの方々をお招きしたいと考えております。



雑木林応援隊

雨宮 廣之

雑木林応援隊の今年度

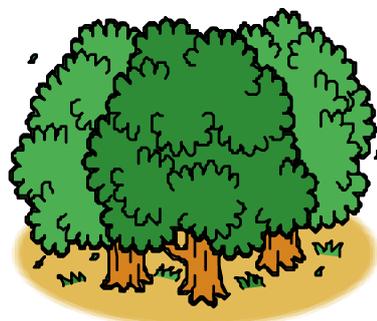
今年度の活動も後二週間程で終了しますが、今年度の活動を振り返り、来年度の活動に役立てればと思以下まとめてみます。

年々高齢化が進むのは、どのプロジェクトでも同じかと思いますが、我が応援隊も、身体の不調、体力の低下の他、転勤等で活動人数は減少しています。新しい試みとして、応援隊への参加募集を行いました。結果、四名の方が見学に来られ、来年度より入会する方もおられます。これは里山の会の為にも定期的に募集を行う事とします。

定例活動としては、草木染め、ツルカゴ教室、炭焼き講座と三回の公開活動を実施しましたが、ご存知の通り、秋祭りに実施予定だったツルカゴ教室は、季節はずれの台風で流れてしまいました。苦労して集めたツルカゴですので、陸平の方達と後日、ツルカゴ編みを楽しみました。

他、コジユケイの間伐、梅林の草刈り、ムジナの里の下草刈と竹林整備は、例年通りの実施内容でした。今年度の活動で新しく加わったのが、森入口前の竹垣の更新、園内に設置するイスの製作です。

里山の会が観察の森の指定管理者となつて五年が経過し、来年度よりの指定管理も当会が受ける事になったのはご承知かと思いが、周辺環境の示すと



おり、管理予算は減少する事となります。そこで、観察の森内の整備作業は来年度も積極的に実施していく予定です。今まで来園者も増加して来



牛久自然観察の森 入口
竹垣修理する雑木林応援隊のメンバー

て、どうやら日本一の観察の森になった様ですが、今後は、量と質の両方の充実を計るためにも、園内の整備は重要性を増すばかりと考えています。

合わせて、里山セミナーでの講演の通り、ナラ枯れ対策も急務となっております。里山の管理を掲げても、現状は大径木の間伐が進まず、カシナガの住みやすい環境となっている事は注意が必要です。

観察の森入口の左側に、キノコのホダギとして現在も利用している森が有ります。あの森を見ていると、本当にきれいだと思えますが、そのまま、後を振り返ると、公園型管理をしてきた結果、下草は無いのですがコナラ、クヌギが大きく育ってしまったります。それも美しいのですが、コジユケイの林は、里山的な管理が良いのでは無いでしょうか。

樹名板

チーム街路樹20 受託事業報告

増田 勝彦

昨年の実績を、新年度に繋ぐ

東北関東大震災から、十日経過した。被災地の現状・原発の復旧状況をラジオで聞きながら本稿を書いているが、気がのらない。当会会員にも被害を受けた方が多いが、「頑張つて！」と言う言葉も空しく響くほど、今回の災害は大きすぎた。

チーム街路樹20は、発足して早くも三年目に入つたが、市委託事業と純ボランティア活動の両建ての活動は、極めて順調である。

委託事業は樹木名を書いた樹名板を市内の街路樹・公園樹に付けて、その後は巡回を二ヶ月に一回実施。数量の確認、割れ、コケ等を主因とする汚れの確認をする。昨年度は街路樹に続き、初めて公園の樹木に樹名板を百十数枚付けて、若い親子連れを始めとする公園利用者に感謝されている。

樹名板費用と活動時の交通費等は市の契約に含まれるが、その他はメンバーの手弁当で支えられているボランティア活動である。一方、一昨年からは、これも自主的に始めたロマン活動（落葉掻き）も軌道にのり、昨年は六年振りに市内の街路は見事な黄葉で覆われた。市民がカメラで撮影する姿も散見された。市緑化推進課と連携しているが、メンバーの継続的な熱意が想定以上に市を動かし、剪定抑制への方針転換を実現することができた。

メンバー十八名の連絡は、メーリングリストを使用しており、リアルタイムで連絡事項を伝える。更に月一回、二時間の「交流会」で、当月の反省と次回活動の方針を立てると言うパターンは今後も変わらない。

新年度の取り組みとしては、昨年に続き、公園に

百余枚の樹名板を新設する予定。しかし、割れとかコケ等で汚れた樹名板が数十枚発生している。これは、今年度の委託費で交換したい。一方、街路樹では皆無であったいたずらが、「みどり野第二街区公園」で二枚発生、特定の人の仕業ではないかと推測しているが、こちらの監視も怠れない。

ロマン活動は、市中央図書館前のモミジバフと、市役所横の近隣公園のメタセコイアを対象に、十頃から引き続き実施する。

市広報うしくに、三年半に亘り連載された「わが街の木」は、先月三月一日号で終了。二月の交流会で、チーム「街路樹20」の活動を写真と文で記録に残し、報告書を作つては？と言う新しい提案があつたので検討したい。

メンバーの懇親を兼ねた研修会は年四回実施予定であるが、四月の上野公園界隈の見学会は余震を警戒して延期した。

昨年一泊で訪問した福島県の裏磐梯、三春町の震災被害は幸い軽微であつたと聞く。

三春の滝桜は、今年も見事な花を咲かせるだろう。



いたずらで黒変した
ハナミズキ樹名板
みどり野第2街区公園



里山自然観察隊

平塚 芳雄

観察隊の新年度の活動について

観察隊は前身の「里山歩き」を引き継いで丸五年が過ぎました。この間、

毎年一回開催の「植物ガイド（植物観察会）」の他、「市内におけるホルタルの生息地調査」、「小野川流域の雑木林及び稲収穫跡の水田における植物相調査」等を実施してきました。又、「環境フェスタ」への出席、里山の会主催の「里山の秋祭り」へも参加しました。更に、昨年度からは環境省生物多様性センターが進めている「モニタリングサイト1000里地調査（植物相）」について未だ正式参加ではありませんが同センターで示されている調査基準に従った植物調査を実施しています。

新年度の具体的な活動としては昨年度とほぼ同じ内容で次の四事業を考えています。一般市民の参加を募つての「植物観察会」。「モニタリングサイト1000里地調査」基準での植物調査。うしく里山の会主催の「里山の秋祭り」への参加。過去の調査データの分類・整理・まとめとその冊子化。

「植物観察会」は昨年度と同様、年三回。春四月、市内城中町・新地町でスミレの花を観察。晩夏九月、牛久自然観察の森近辺で湿地植物を観察。晩秋十一月には城中町で草木の果実を見ると言うテーマで実施する計画です。昨年度は準備が十分でなかったこともあり一般参加者が全体で七名と少なかつたが今



年度は参加者増を図りたい。

「モニターングサイト1000里地調査」基準での植物調査は毎月一回、城中町の所定のコーズで蕾・花・実の状態の雑草・野草及び胞子状態のシダ植物のリストアップを行う。調査開始以来、天候の関係で実施日を変更したことはありますがほぼ予定通り毎月実施しています。今年度は一年間の経験を活かしより充実した内容にしたいと思っています。



スミレ類の先頭をきって咲くアオイスミレ

昨年度、雨天のため実施できなかった「里山の秋祭り」への参加は昨年同様一般市民を募集し、観察の森近辺で野草・樹木を観察しながらの里山歩きを考えています。

過去に行った植物調査のデータについては昨年度、分類・整理し、冊子化を計画していましたが、着手できず、今年度はなんとか実現させたい。昨年度計画通りの活動ができなかった一因は観察隊のマンパワー不足。今後の対策としては現メンバーのレベルアップと新メンバーの確保に努めたい。又、現メンバーの専門的知識水準を考え観察会の内容を工夫することも考えたいと思っています。



牛久自然観察の森だより
チーフコーディネーター 齊藤 孝

東北地方太平洋沖地震の被災報告

今月号は予定を変更して、先地震発生時における状況報告をいたします。(記録原文まま)

『ゴゴゴゴという地鳴りに続き揺れを体感した職員は、数秒で事務室や展示室から走り出て、館内を「地震です。非難して下さい」と声かけ走りながら巡回、当時レクチャー室にてイベントの片づけ中であった団体利用客を館外へ誘導。別職員が男女トイレ、多目的トイレにも入り大声で非難を指示、女子トイレを使用中だった数名を館外へ誘導。また、一階和室で休憩中であつた職員が一階廊下や薪ストーブ前に来館者が居ない事を確認、取り残された来館者がいないか声を出しながら誘導。本震の初動から約十秒ほどで職員と来館者の全員が館外へ非難することが出来た。

その後本震の強い横揺れが数十秒続いた感じであつた。センター前に避難した来園者と職員は、低い体勢にしゃがんで揺れに耐えた。(これまでも震度3以上の地震だと各職員が判断した場合、まずは出口の確保として窓や自動ドアの開放を行って、建物の倒壊や展示物の破損の可能性がある場合、安全な屋外に来館者を誘導する仕組みが運用されていた。過去にも同様の避難誘導が数回あつたので職員らは慣れていたように感じた)。

本震の強い揺れの間は、館内の様々な物品が落ちる音が生じていたが、樹木など建物外にある自然物には破壊的な動きは見られなかった。



ただ、センター裏のスギ大木が強い振動で一斉に花粉を放出したため(高さ5m・横幅二十mほど)白煙が上がったように見え、「煙だ」と一瞬火災が発生したと勘違いした粉です。今日は薪ストーブも暖房もつけてませんから大丈夫です」と言ってその場にいた約二十名を落ち着かせた。また、この時点で停電し、一部が予備灯になった。

本震が落ち着いた後、センター前では余震に備えてその場にいた全員が低い体勢で身を守る状態が数分続いた。その際、来園者の一名がワンセグ機能付き携帯電話のテレビ画面を見て「宮城、震度7、このあたりは6だ」と



話し始めた。これを受けて、他の来園者も携帯電話を取り出し通話を試みようとしたが、既に通話やメールなどは不可能な状態になっていた。職員に関しても同様に、携帯電話での外部への連絡手段が断たれていたが、幸い全員がセンター前に集合していたので、齊藤が事務室横のヘルメット置き場から全員分のヘルメットを取り出し着用を指示、更にセンター横に保管していた非常用持ち出しバッグを来園者の前に移動することで来園者の不安を取り除く試みを行った。これと同じ頃、観察舎方面で被災した一般来園者らが順次センター前に戻ってきたため、それぞれ

負傷者が居ないかの確認を行い、同時に観察舎方面の被害状況を聞き取りした。それによると観察舎のガラス戸が破損していることや壁の一部が崩れているとのことだった。

身の危険を感じるような余震が、立て続けに起こったため、来園者及び職員らはセンター前からの移動が難しかったが、余震が続いた事で不安が増した来園者（高齢の女性）が数名現れたことを受けて、避難場所をバツタ原に移動してあらためて救助所とした。

救助所に来園者を移動させた後、職員が観察舎方面に向かい来園者安全確認巡回を行った。また、バツタ原に避難移動した一部の来園者が、帰宅を希望したためバツタ原正門まで誘導を行った。一方、観察舎方面には来園者が一人も取り残されていないこと、電線や電気設備・受水タンクなどに被害が出ていないことを巡回した職員が確認、戻り次第全職員に周知した。この後バツタ原に留まっていた団体スタッフらの退園を補助するため、イベント備品や貴重品を保管していたセンター内レクチャー室から持ち出すことになり、入館者はヘルメット着用を義務付けた上で持ち出しを行った。

この時すでに電気は復旧していた。これが終了すると全ての来園者が退出し、本震発生から約一時間間に、負傷者無く来園者の避難誘導が完了した。避難訓練をそのまま再現したような展開だったが、職員らは大声での誘導に加え、温かい言葉で来園者を励ましていた。

施設の被害状況などは次号以降「報告」させていただきます。



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の

牛久自然観察の森

に隣接する「牛久

市結束町みどりの

保全区」の森林維

持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の

皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の

処理等を行なっています。活動には会員・一般問わ

ず参加出来ます。

皆様のご参加お待ちしております。

四月の活動日時

一日（金）午前九時～十一時半

十七日（日）午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

（予約不要／荒天時は中止

ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手（長袖、長スボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当：石神



身近な樹木 No.1 ニワトコ

スイカズラ科の落葉低木、二～六m。本州、九州に分布、県内では山地から平地まで広く自生。市内では写真のように斜面下部の藪に多く、コブシと共に、白い花が早春を彩る身近な樹木です。

幹は基部から枝分れし、古い枝は樹皮が縦に裂け灰褐色で、厚いコルク質が特徴です。枝には皮目が目立ち、若い枝は緑色。葉は対生、奇数羽状複葉、花のない枝の葉は葉柄を含めて四五cmにもなります。小葉は三～六対、長楕円形で先が尖り、縁には細鋸歯があり、表面は緑色から帯紫色。

花期は三～五月で、新葉と同時に開きます。新枝に長さ幅とも三～十cmの円錐花序を出します。花冠はかすかに白、帯黄白色で、ときに帯紫色、径三～五mm、深く五裂し、裂片は約二mmで、花時に反り返ります。果実は核果、径三～五mmの卵円形で、九～十月に赤色に熟します。

庭木として栽植され、果実が黄色のキミノニワトコが珍重され、この辺りでも希にあります。髄は植物実験のピスを作る材料として知られています。若芽は山菜に利用されています。（渡辺泰）



藪の中で新葉と花が開きはじめてたところ 渡辺 11.3.25

2011年4月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 エコアップ作戦 9:00NC	2
3 うしく(里山の会活動説明会)会員募集] 9:00NC 巨木リサーチ2(特) 9:00市ラッパIC	4 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	5 森の畑 9:30畑	6	7 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	8	9 里山自然観察隊 (植物観察会) 9:00得月院P 親子農業体験講座 13:30NC
10 雑木林応援隊 9:00ムジナ	11 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	12 森の畑 9:30畑 里山自然観察隊 (モリノク 里地調査) 9:00得月院P (会報等原稿不切)	13	14 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15 クラブプロジェクト 13:00NC	16 親子農業体験講座 9:00畑
17 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC	18 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	19 森の畑 9:30畑	20	21 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	22 (会報原稿確認)	23 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関前 親子農業体験講座 9:00畑 チーム'街路樹20(受) 13:00市ラッパIC (交流会)
24 雑木林応援隊 9:00炭屋	25 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	26 (休園日)	27 森の畑 9:30畑 会報発送 13:00NC	28 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	29 (昭和の日) 雑木林応援隊 9:00炭屋 (5/1まで炭焼き)	30 雑木林応援隊 9:00炭屋

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください!

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場の畑
コジユケイ: 牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受託事業
(特): 特別事業



編集後記

東北地方太平洋沖地震の被災に遭われた方、また福島原発のトラブルに影響を受けた方、心よりお見舞い申し上げます。

この地震はM9.0の規模で、今までの世界中の記録に残っている地震の規模では四番目のようです。

一九六〇年「チリ地震(M9.5)」・一九六四年「アラスカ地震(M9.2)」・二〇〇四年「インドネシア、スマトラ沖地震(M9.1)」。

今回の地震の名称としてはいくつもあります。気象庁は「東北地方太平洋沖地震」、NHK「東北関東大震災」、民放「東日本大震災」、読売新聞「東日本巨大地震」・・・というように呼び名は決まっています。それぞれが名称をつけていますが、最終的には発生した地震に対する命名は気象庁、地震により発生した被害については政府が決める場合もあるようです。

いずれにしてもそんなことより、日本沈没にならないよう国民全員が協力し合って、一日でも早く復興されることが大事なことでしょ。

私たちは自然を愛する仲間の集まりですが、今回は愛せない自然があることを身にしみて思いやられました。普段、当り前であまり意識しない水・電気・そして新鮮な空気、今回はつくづくこの世で一番大切なものと感じたのではないのでしょうか。

私も、被災者受け入れのための牛久市のボランティアに二日間参加してきました。市民の方から提供された寝具類の集約運搬や、避難されてきた方の受け入れの手伝い等でした。避難された方々から生々しい声もお聞きしました。

まだまだ、余震は続いています。皆さんも充分にお気をつけください。
佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年5月号の発送は4月27日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願います。